



愛光NEWS

2021年8月

2021（令和3）年10月5日発行

（編集）愛光本部企画室

（TEL）043-484-6391

（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

愛光NEWSは、5月以来の発行になります。7月には、法人内で新型コロナウイルス感染症の発生が判明し、発行時期を逸してしまいました。お詫びいたします。法人内での発生の際、利用者の皆様は制限された生活が続きました。事業所では、お互いに励まし合いながら感染拡大予防に取組み、利用者、職員全員で乗り越えました。その時の状況について報告いたします。

コロナ禍で、各事業所とも、感染予防に十分気をつけ、行事を工夫して開催しました。利用者の皆様も、日々の中活動に取組みました。8月の様子をお伝えします。

□事業経過など（2021.8.1～）

月/日(曜)	記 事
8/2(月)	緊急事態宣言4府県追加
3(火)	インターンシップ受入れ（1名）
4(水)	業務執行会議／地域食堂委員会／インターンシップ受入れ（1名）
5(木)	メンター制度委員会／インターンシップ受入れ（1名）
8(日)	東京五輪閉会式
9(月)	山の日
10(火)	感染症委員会・衛生委員会／利用者ワクチン2回目接種（ルミエール）
11(水)	人材育成プロジェクト
12(木)	広報委員会
17(火)	衛生委員会／ICTプロジェクト
18(水)	障害者支援事業部実績会議／栄養改善委員会／リスクマネジメント委員会
19(木)	法人防災委員会
20(金)	緊急事態宣言延長拡大
20(金)	佐倉圏域事業部実績会議
23(月)	高齢者福祉事業部実績会議
24(火)	パラリンピック開会式
24(火)	インターンシップ受入れ（1名）
25(水)	地域福祉事業部実績会議
27(金)	メンター面談研修／日本医科大学 WEB 説明会
31(火)	法人コンプライアンス委員会

■おもな出来事

□めいわ

障害者支援施設めいわで、7月に、職員1名、利用者1名の新型コロナウイルス感染症の陽性者がでました。

印旛健康福祉センター、千葉県障害福祉課の指導を受けながら、施設内をゾーニングし、新たな感染者が出ないように対応に努め、8月10日に終息いたしました。

現場で対応した職員は、感染エリア・非感染エリアを問わず个人防护具を装着しての支援を行いました。

経過をご報告いたします。

7月5日（月）にA職員より発熱外来にてPCR検査実施の報告があり、翌日検査結果、陽性との報告がありました。発症2日前の7月2・3日（金土）について接触者への感染リスクがあるため、めいわ全利用者・職員対象に抗原検査を7日に実施し、103名、全員陰性の結果でした。

8日（木）印旛保健所の調査対応の結果 1階女性利用者15名が濃厚接触に該当。PCR検査実施。

9日（金）PCR検査実施（対象15名のうち13名検体提出）。利用者全員陰性。

12日（月）利用者B様 38度代の発熱。以後18日までの間、日中解熱、夕方以降38～40度代の発熱が続く。嘱託医に相談し対応をする。

19日（月）印旛保健所 疾病対策課より終息宣言出すための職員・利用者状況確認の問合せがあり、経過報告行ったところ、利用者B様についてPCR検査実施の指示があり、20日、PCR検査を実施する。結果陽性。

21日（水）印旛保健所による調査の結果、PCR検査実施対象者99名の特定。

22日（木）職員PCR検査を実施、全員陰性。

23日（金）利用者PCR検査実施、24日（土）利用者全員陰性。

26日（月）印旛保健所より、陽性者対応については、他者への感染リスクがなくなったため隔離解除との指導を受ける。保健所の指示により、終息宣言が出るまで、感染防止対策（个人防护具装着等）を継続する。

8月10日（火）午後印旛保健所より連絡。再度状況報告行った結果、終息となる。

■月報から

□密を避けて、「夏の思い出作り 2021」（めいわ）

日中活動休み期間中（12日～17日）のイベントとして、15日（日）めいわのど自慢大会を行なった。

毎年行なわれてきた「光和会のど自慢大会」は利用者の楽しみのイベントだった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、昨年より「光和会のど自慢大会」は中止となっている。その代替りのイベントとして、昨年からめいわの「のど自慢大会」を企画して、今年で2回目になる。今年は27名のエントリーがあることから、のど自慢大会への高い関心と熱意が窺える。

コロナ禍の状況で開かれたのど自慢大会も2年目に入ると、感染症対策にも工夫が必要になる。

エントリーした方の人数も多いため、1階と2階の利用者に分け、時間は午前と午後に分け、出演者のみの参加で行なった。利用者全員が集まると、盛り上がりは違うはずだが、今の時代だからこそ、感染防止対策に注意を払って、余暇を楽しむ工夫は今後にも必要になるかと考える。自粛や制限が多くなっている状況の中でも、思う存分楽しむための工夫も考えた。いままでとは違うやり方は楽しみにもつながる。

今年は出演前に一人一人写真撮影をし、其々が主演となった一日だった。

（めいわ課長 李 連淑）

□夏を楽しもう会（リホープ）

29日 夏を楽しもう会を行った。エレクトーンクラブの「少年時代」「カントリーロード」「上を向いて歩こう」等の演奏を楽しんだ後は、チーム対抗の三択クイズを行った。上位チームには洗剤等の日用品、残念賞でもティッシュがもらえる景品をかけたクイズはとても盛り上がり、利用者、職員ともに楽しんだ。午後からはのど自慢大会を開催。一人ひとりが自慢の一曲を披露した。かき氷、焼き鳥、餃子とおやつを充実させ、午後の企画を充実させたいという自治会役員の思惑通り、昨年の倍近い利用者が午後の部にも参加し、一日通して楽しむことができた。

（リホープ課長 稲垣 直子）

□ヘレンピック（ルミエール）

東京ではパラリンピックが開催されているが、ルミエールでもヘレンピックが急遽開催された。参加者はヘレンホーム利用者、種目は「ボッチャ」である。金メダルを目指し、集中してボールを投げる。勢いよく投げる利用者、足元に落とす利用者、声を出して投げる利用者、それぞれが楽しそうにボールを投げる姿を見て職員も応援に力が入る。大会結果としては全員が金メダルを獲得した。

（ルミエール課長 原 宏之）

□生産体制の試行錯誤！（佐倉市よもぎの園）

少し前から新規作業を始めている。作業内容は単純（パネルの汚れ落とし）だが思いのほか生産量拡大に苦慮をしている。汚れた箇所をブラシでこすったり、ウエスで拭いたりするのだが、現段階では汚れが落ち切らない状態で検品に回ることが多く、再度汚れ落としが必要な状況になる“負のスパイラル”をくり返している。

再洗いが不要ない品質に持っていかなければ生産量が上がりず売りに繋げることが難しい。新しいチャンスを作るため現場職員は利用者と共に試行錯誤を繰り返している。“生みの苦しみ”はあるが「最初は大変だったね」と振り返られるその時が来るよう、職員の頑張りにも期待している。

（佐倉市よもぎの園 近藤 真一）

□仕事発掘（ワークショップかぶらぎ）

「法人内の仕事発掘」に、はちす苑が協力を申し出てくれた。職員が見学して、掃除体験、マニュアル作成をおこない、利用者のトライアルに向けて動いている。「外部への仕事発掘」も、ネット申し込みから、トライアルを実施することができた。外部の仕事では、別の案件もあったが、スペースを必要とするもので、当事業所での実施は難しいものであった。

（ワークショップかぶらぎ 高橋 健）

□ヒヨコのお菓子（ジョーの家）

世話人が、コロナ禍であっても利用者に少しでも楽しみをもってもらいたいとのことで、利用者へヒヨコの形をした観賞用の手作りお菓子を作ってくれた。世話人の利用者への温かい気持ちを感じた一面であった。

（ジョーの家サービス管理責任者 高橋 健）

□卓上ボール盤（根郷通所センター）

旧園芸棟と陶芸棟を整理し、「大人の積み木」や「一輪挿し」等の新製品の作成に力を入れている。陶芸棟の片隅で長年埃を被っていた「卓上ボール盤」を復活させ、容易に木に穴を開けることへ役買っている。利用者の作業効率を上げるべく、丸太固定用のジグを導入した他、今後はベルトサンダーや集塵機等の新たな機材を導入していく予定である。職員もレーザー彫刻機や様々な機械を使用できる工房へ腕を磨きに出張しているところである。これから出来上がる製品が、一般市場でも通用するものとなるよう、職員も利用者も完成度の高いものに仕上げたいと努力している。

（めいわ通所部主任 高梨 和憲）

□2名の世話人を迎えて（山王の家）

8月に2名の世話人を迎えた。利用者も日々のコミュニケーションが楽しいようである。仕事に早く慣れ、長く続けていただきたいと思う。

（山王の家管理者 高梨 和憲）

□緊急時対応研修（はちす苑）

看護師が講師となり、新人職員向けに緊急時対応研修を行った。緊急時対応の基本的な学習後、転倒し頭部出血をした場面と、おやつを摂取し誤嚥、意識レベルが下がってしまった場面の2例の救急車要請を想定してのロールプレイを行った。他の看護師や職員から、この時には、こうした方がいいね、ああした方がいいねとアドバイスもあり、振り返りにもなった。

その後、酸素ボンベの交換、カルテと鍵の管理する場所等確認し、小テストを行い終了となった。研修を受けた職員の感想も前向きであり、今後に活かしてほしい。

（はちす苑 主任看護師 阿部 美樹子）

□緊急事態宣言と開館と（佐倉市南部児童センター）

東京オリンピック開催中、千葉県にも緊急事態宣言が発出された。他市の児童館では「感染症対策のため閉館」・・・という情報もあった。どのように安全対策を講じて、開館を継続していくかを考えながらの8月だった。もちろん佐倉市の方針に沿っての開館ではあるが、いつ誰が感染していてもおかしくないこの状況下で、利用者ニーズに応えながら配置人員をコントロールし、クラスターを出さないようにすることが課題である。

基本対策は3つ！「三密を避け、定期的な換気」「手洗い消毒の徹底」「マスクの着用」。加えて、使える遊具の制限・人数制限・時間制限など、以前に比べて制約が多くなってしまう。「やっと出来た居場所。閉館になりませんか？」などという声も多く、コロナ禍でも安心して利用できる「居場所」として、利用者のニーズを聞きながら調整しているところである。

これまで利用枠を設定していなかった、幼児と小学生以上が混在する親子が入館できる時間帯を新たに設定。人気の卓球は、次の利用者が来るまで時間の延長を可能にした。0歳児親子対象の「ゆりかごタイム」は、時間の縮小と定員数を減らし開催を継続することとした。事前予約がなくても、気軽に利用できるのが「南部児童センターの売り」でもある。

連日の猛暑で、予想したとおり、様々な家庭状況や幅広い年齢層の方々が、入れ代わり立ち代わりの入館。誰もが存分に気持ちよくあそべるようコントロールしていった。他県への移動や帰省は自粛し、大勢での会食は避けるように！こんな時こそ、児童センターでリフレッシュしていただきたいものである。

（南部児童センターインストラクター 吉田 知加子）

□夏休み、そして（学童保育所）

今年の夏休みは猛暑で、熱中症アラートが連日「嚴重警戒」が発令され、外遊びができない日が続いた。

コロナの影響で、引き続き黙食を実施中である。マスクもくたびれ始めたのか、マスクからのぞく、子どもの鼻やら口に気を配り続ける生活。「〇〇君が、マスクしないで私に話しかけてきた！」などと恐怖で泣き出す子どもまで出てきた。大人もそうだが、子どもたちの中でもコロナに対する意識の差が大きい。各学童保育所で、できる限りの感染予防を継続実施中である。

（学童保育所主任 齋藤 理江）

□第1回地域ケア圏域推進会議を開催（総合相談センター）

26日（木）、地域福祉センターA棟の大広間を会場に、地域ケア圏域推進会議を開催した。緊急事態宣言下ではあったが、密にならないよう会場を広くし、手指消毒や換気を充分に行った。参加者には参加の意向を再度確認し、ご理解とご協力の下、民生委員や自治会長、シニア会や通いの場の代表者など、17名の方が集まってくださった。会議の進め方としては、今年度開催した地域ケア個別会議の事例をもとに、地域毎に3グループに分かれ、それぞれの事例に対してどのような支援を地域でできるか、『あったらいいな』と思う資源は何かを検討した。

各グループ、地域性はあるものの、「地域とつながるきっかけは何か」「課題解決の糸口はないか」地域の実情を踏まえ、さまざまな意見が出ていた。また事例を挙げ、地域で個別課題を解決する選択肢を考えてもらうことで、具体的に取り組みそうな話し合いに発展したグループもあった。

コロナ禍で何かを始めるには大変さもあるかもしれないが、結果的に今回の会議が考えるきっかけとなるよう、さらに地域住民の方とともに考えていきたいと思っている。

（総合相談センター所長 森 由美子）

□囲碁や麻雀ができてうれしい（南部地域福祉センター）

緊急事態宣言中、センターの事業は中止にしているが、貸館や同好会（サークル活動）については、感染対策をとり、利用者の判断、希望で受け入れている。囲碁については、3つのグループが人数を制限し、感染症対策を徹底して活動している。「この時期に囲碁ができて本当にうれしい、感謝。」という話が聞かれた。また、女性の麻雀のグループ（女子雀）では、「麻雀をしているときは、コロナを忘れることができ、本当にありがたい。」という話があった。

（南部地域福祉センター所長 横川 民夫）

■職員状況（8/31現在）

	人数	前月比
正職員	180	-1
サポート職員	33	-1
非常勤職員	153	-5
計	366	-3